

DAY1

Stage1

ジムカーナ in YATABE

**熱戦の火蓋はここから本番!!
縦横無尽に激走開始だ!**

10月19日、時間は午前4時30分……。

まだ夜の明けきらぬ谷田部テストコース。ステージ1・ジムカーナに向け、集まったエントラント達は9チーム。周囲の暗闇を際立たせるかのようなピット照明の下、マシンの準備に余念がない。

静寂の中、タイヤのエア圧チェックなど、作業を黙々と進めるその姿は、チューナー&メカニック達の“ちっくしょ〜眠いよ〜”という、怒りにも似た本音を感じ取らせずにはいられない。

と同時に、この緒戦にむけ、ドライバーであるチューナー達全員の胸中に、鳴り響く“言葉”は、ただひとつ!

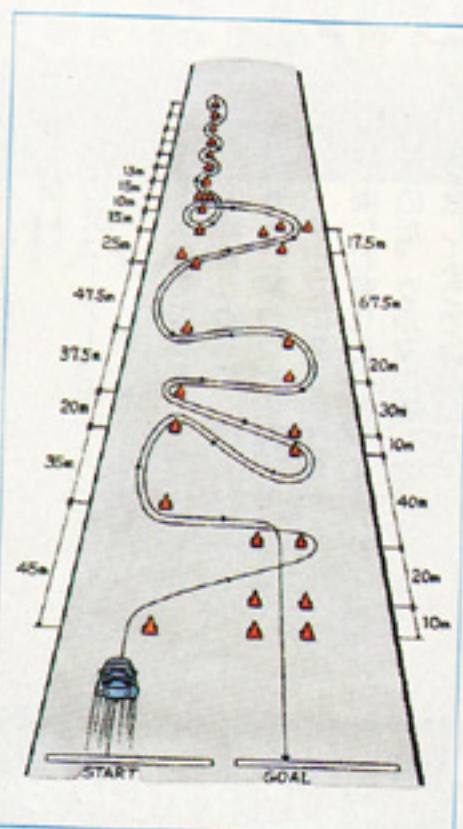
「コース、覚えられるだろうか……」

ジムカーナ タイムアタック リザルト

順位	エントラント	マシン	タイム	ミス	総合タイム
1位	マインズ	GT-R	1分49秒258	0	1分49秒258
2位	エスプリ	シルビア	1分54秒739	0	1分54秒739
3位	圭オフィス	シルビア	1分55秒950	0	1分55秒950
4位	Dal稲田	セリカGT-FOUR	1分56秒996	0	1分56秒996
5位	ガレージ福井	MR2	2分05秒189	0	2分05秒189
6位	HKS関西	ランサーエボリューション	1分55秒813	1	2分25秒813
7位	ブリッツ	セリカGT-FOUR	2分07秒584	1	2分37秒584
8位	レイズ	スープラ	2分08秒353	2	3分08秒353
9位	RE雨宮	FD3S	2分18秒608	4	4分18秒608
10位	トライアル	GT-R	1分41秒002	6	4分41秒002

※結果は2トライで速い方のタイム。ミスコース1回につきゴールタイムに30秒加算。ミスコースしても、もとの位置に戻ってやり直した場合はミスコースとの判定はしない。

というわけで始まった、ジムカーナ・アタック。まずはゼッケン①RE雨宮RX-7のトライ。雨宮オリジナルのビーボアフライホイールが、ビヨウ、ポー、と唸り、グリーンのセブンがコースを疾走する。そのサウンドはまるで、ヒョイヒョイ〜ン(まったくよく、ポー(誰だよ)、ヒョホホー(こんなコース作ったのは、ババァンツ(ケツ)と、ドライバー全員の気持ちをそのまま音で表していたかのようだった。最初のパイロンを難なくクリア、



コンビネーション抜群!

ブリッツ・セリカGT-FOUR:「パイロンに数字でも付いておればいいのに、コースがなかなか覚えられなかったよ。でもナビの森本君と気合で頑張りました。TRDの調整式ショックを柔らかめの2番にして、ブレーキングでフロントがフックと込み込むようにセット。が、元々がFFベースの4WD。終始ド・アンダーなのが苦しうだった。」



「コンビネーション抜群!」というフレーズの通り、森本君と気合で頑張りました。TRDの調整式ショックを柔らかめの2番にして、ブレーキングでフロントがフックと込み込むようにセット。が、元々がFFベースの4WD。終始ド・アンダーなのが苦しうだった。」



そして2本目も、……速い!が、3本目のパイロンから、やはり迷宮に突入してしまふ雨宮さんであった……。

その後のチューナー達のトライも似たりよったりの状況で、ナビの同乗を許可したにも関わらずミスコースが続出。コースをトレースするのを途中であきらめ、好き勝手に走り出すレイブロス・斯波やトライアル・牧原。間違っても真面目にバックして元に戻りトライを続けるHKS関西・向井、ゆつくり走ってパイロンを確認しながらコースを回るガレージ福井・朝つららのロングランはジムカーナコースに馴染みの色を感じさせないプロ意識の光りかた。

ただし、パイロン設置に時間がかかったためスケジュールがきつ、慣熟走行が満足にできなかったという事実も、チューナーの名譽のために記しておこう。

かくして、延べ5日間にわたる熱戦の火蓋は切って落とされた。待ち受ける2400km走破の長距離ツーリング、数々の競技。マシンの性能と信頼性、自己のテクと体力、未体験のビッグステージランを前に、自信と不安が各々の胸を駆け抜ける。

が、後へは引けないぜ。次なるステージ、仙台ハイランドレースウェイへ向かって、……激走開始だ!

横山など、性格が、これほど見事に走り表れるとは!

ほとんどのチームがミスコースする中で、1回目、2回目ともにノミスだったのは、なんと大穴のDaiセリカ。

そんなDaiは「クルマのセッティングや能力よりもチューナーの脳力がポイントみたいだナ」なんて燃発発言も。でもソレは当たり前、です!?